

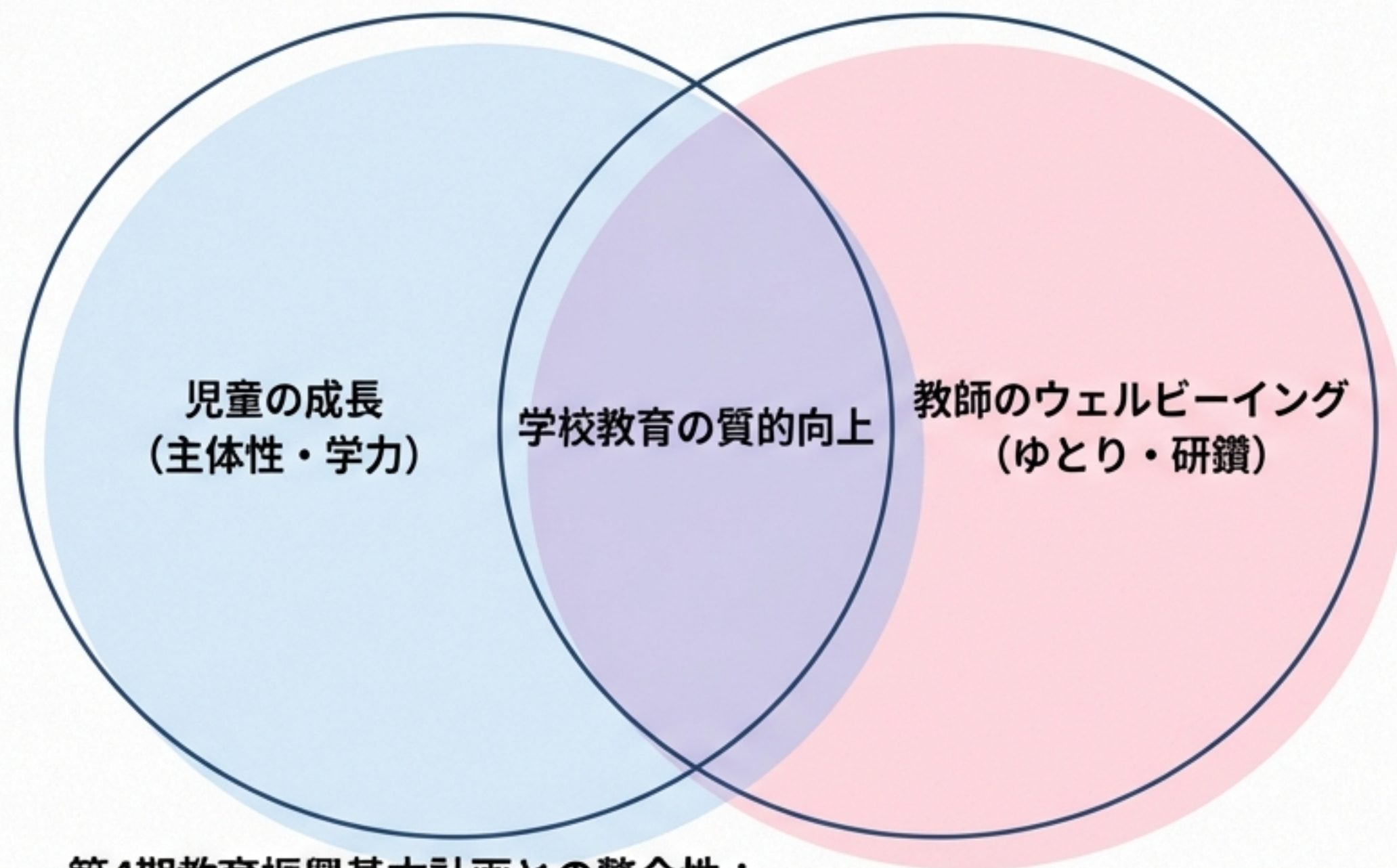
児童も教師も主体的に楽しみ、 高まる活動の創造

～生み出した毎日30分の弾力的活用と
1コマ40分の授業づくりを通して～

糸島市立桜野小学校



研究の目的とビジョン：持続可能な社会の創り手とウェルビーイングの実現



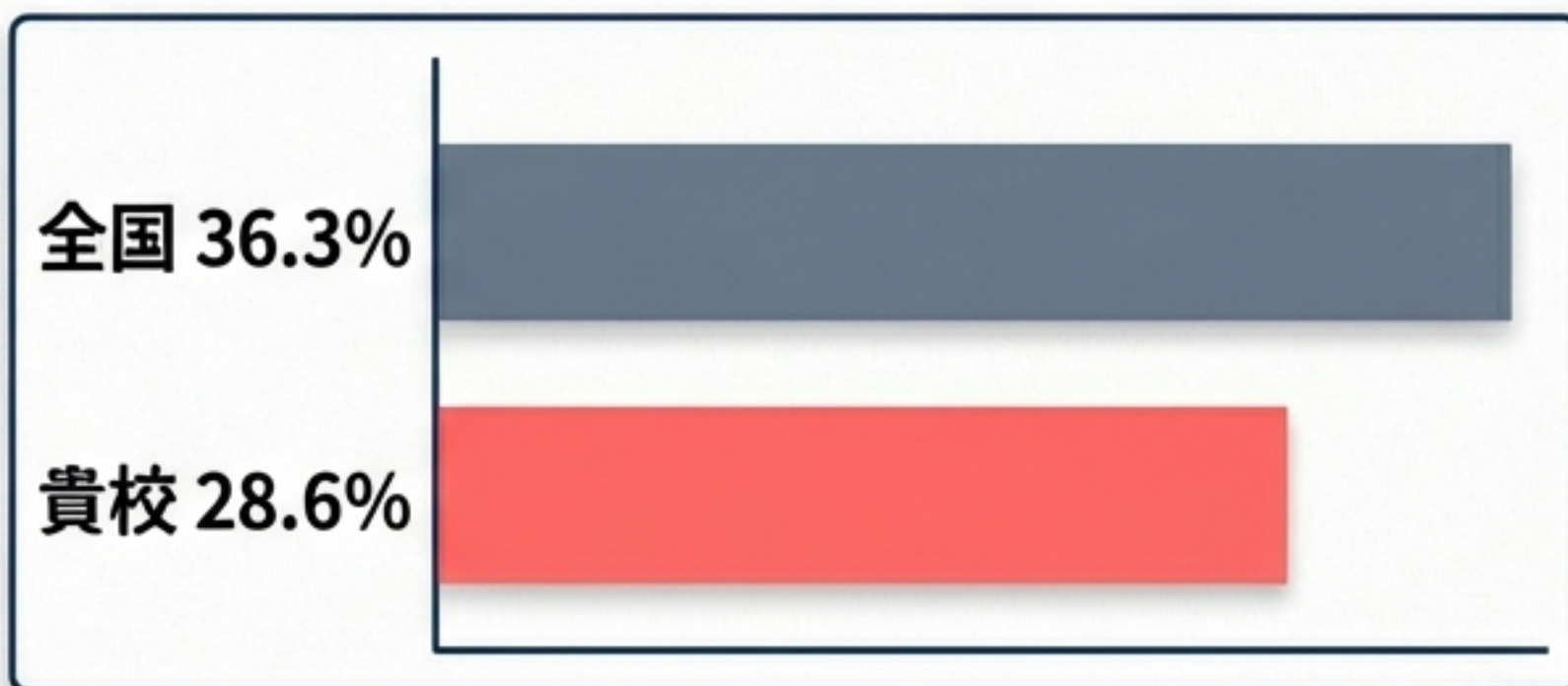
第4期教育振興基本計画との整合性：

- 持続可能な社会の創り手の育成
- 日本社会に根差したウェルビーイングの向上
- 教育課程および教育課程外の取組の刷新による質の向上

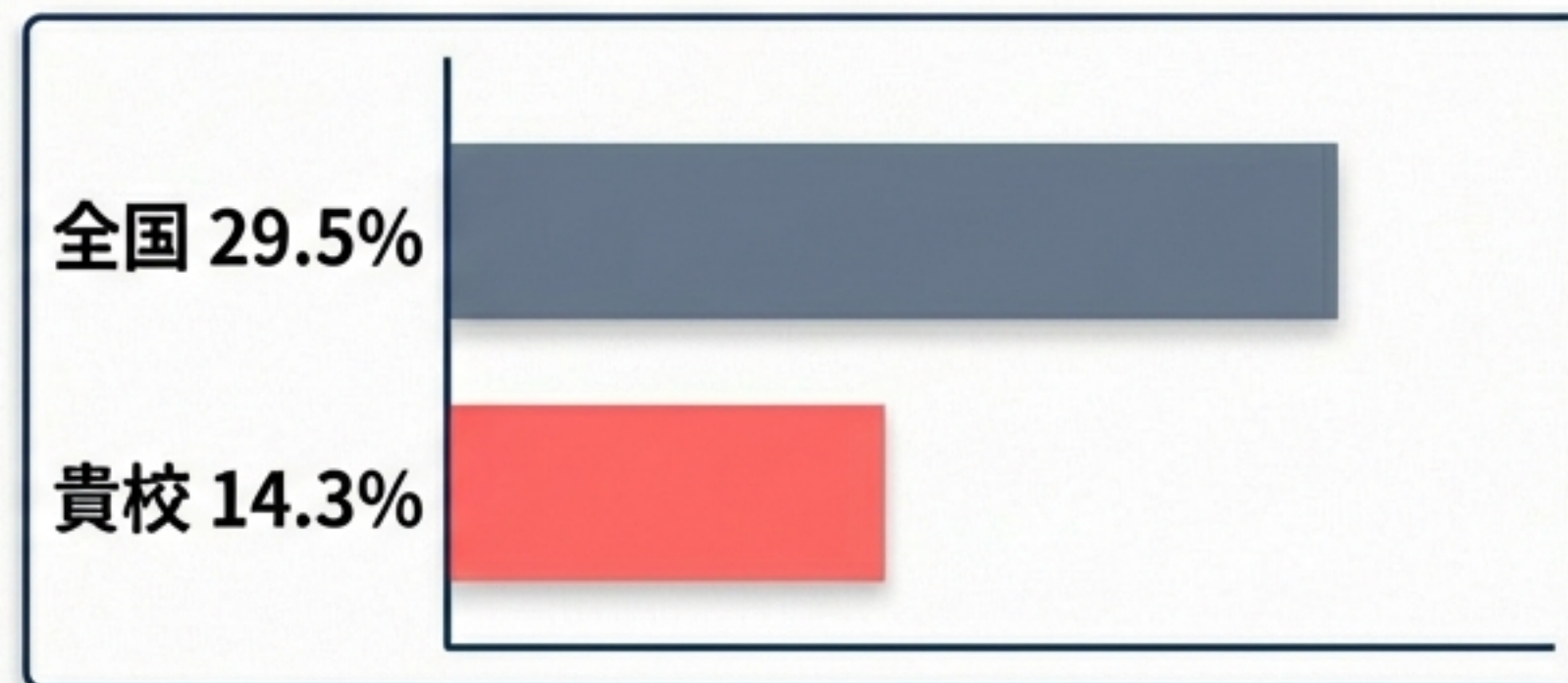
課題の所在：自分たちで考え、解決する経験の不足

R6年度 全国学力・学習状況調査 質問紙結果

Q39 学級会で話し合い、解決方法を決めている



Q30 課題解決に向けて、自分で考え取り組んだ



分析：学校生活や学習の中で、児童が自ら課題を見つけ、解決策を考える経験が圧倒的に不足している。

研究仮説と手法：授業時間の短縮による「学校裁量時間」の創出



仮説：生み出した30分の弾力的活用（研究内容Ⅰ）と、40分での最適な授業デザイン（研究内容Ⅱ）を組み合わせることで、小中連携に基づいた教育の質的向上が実現する。

研究内容Ⅰ：生み出した30分（週5日）の弾力的活用

レベルアップタイム

週2日・学力向上



児童自身が学習内容と方法を選択し、個々の学力を伸ばす時間。

やるキッズタイム

週2日・主体性



児童が「やりたいこと」を話し合い、計画し、実践するプロジェクト型学習。

ゴールデンタイム

児童下校後・教師の研鑽



児童は帰宅。教師が授業準備、若手育成、チームビルディングに充てる時間。

レベルアップタイム：自ら学びの課題を見つけ、方法を選択する

コンセプト：与えられたドリルではなく、児童が「自分の伸ばしたい力」に合わせて学ぶ。

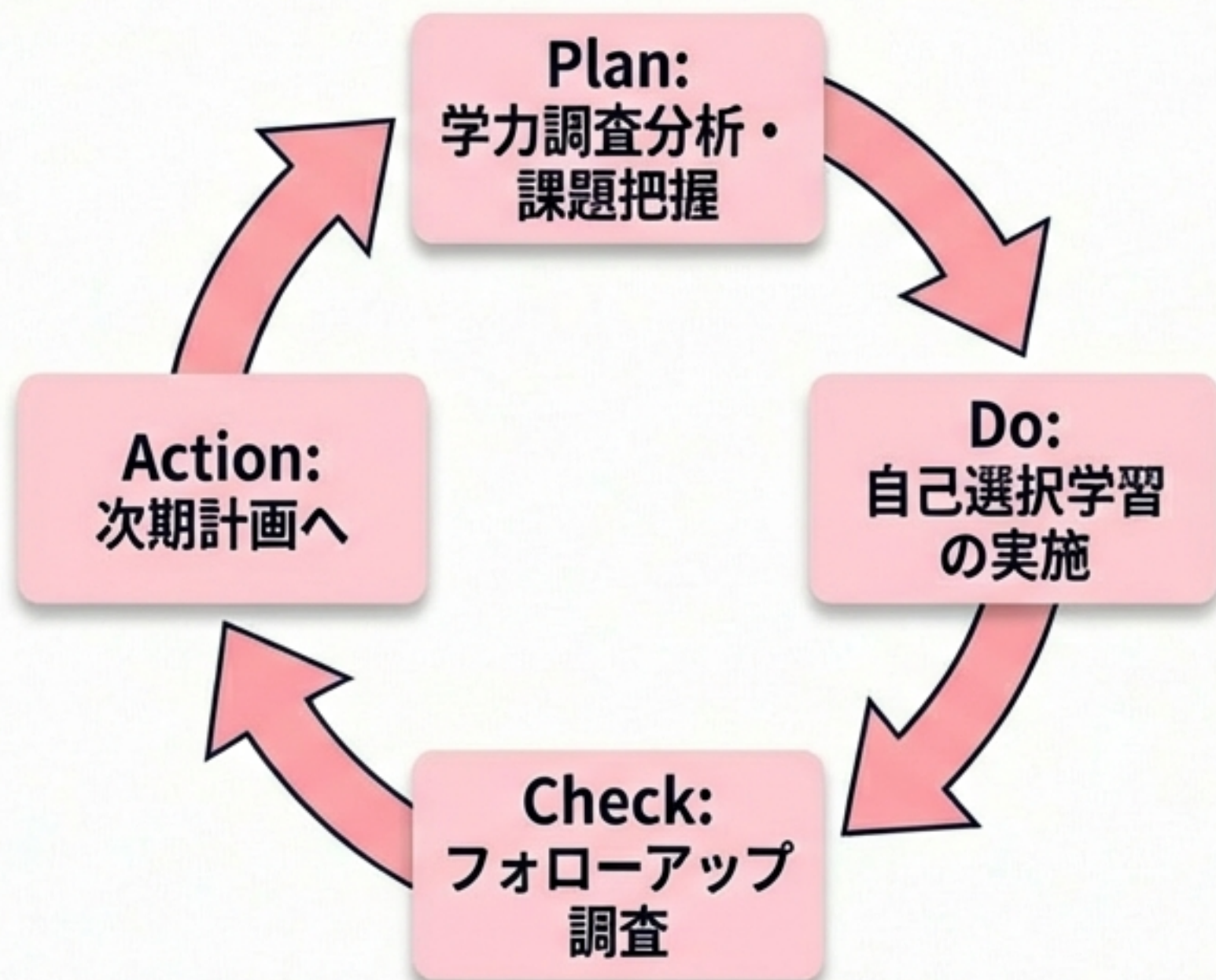
仕掛け：

1. 自己評価シート：自分の強み・弱みを分析。
2. 相互アドバイス：友達と教え合う場の設定。

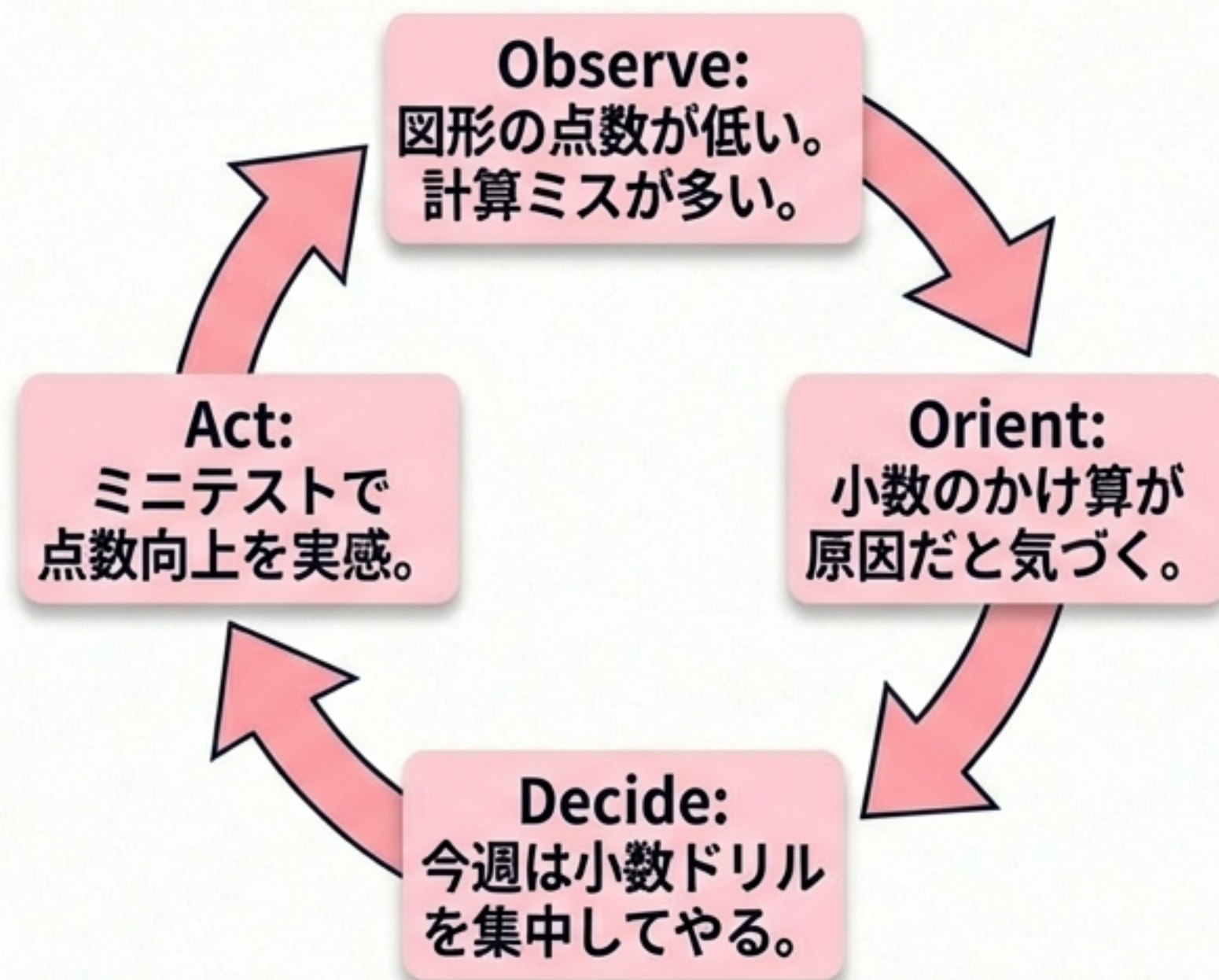


成長のための2つのサイクル：長期PDCAと短期OODA

長期スパン（PDCA） - 年間3期



短期スパン（OODA） - 1～2週間



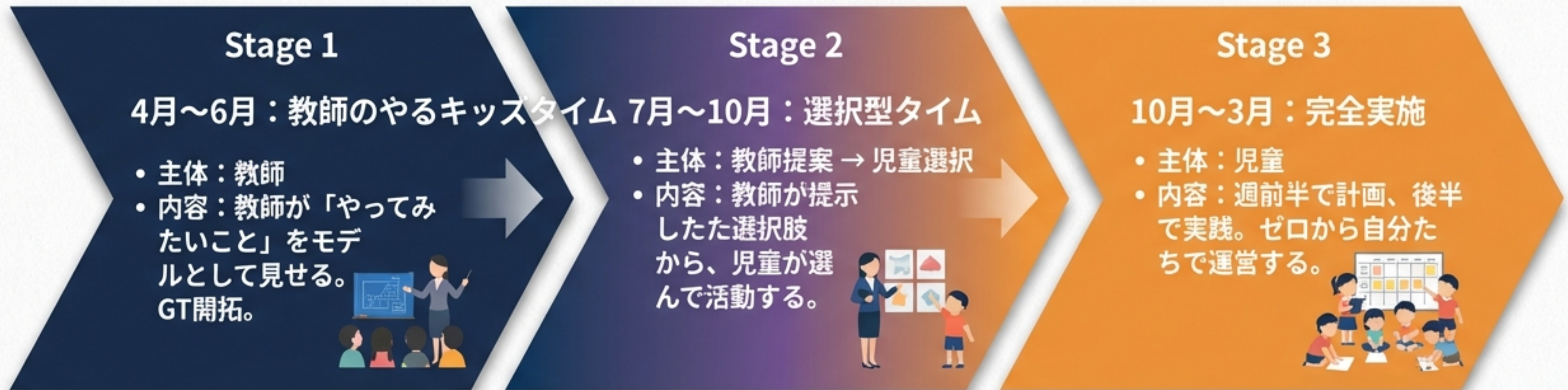
やるキッズタイム：主体性を育む「計画と実践」の反復



特徴：

- 外部人材の積極活用（地域の方、専門家）
- 学級・学年・児童会が連携した運営

段階的な主体性の委譲：教師主導から児童主導へ



ゴールデンタイム：教師のゆとりと研鑽の確保

児童下校後、教職員が自己とチームのために使う時間

授業準備・研修



40分授業デザインの研究、
ICT活用法の習得。

メンター制度



「先輩お悩み相談室」
「先輩に学ぼう教科指導」

リフレッシュ・交流



スポーツ、陶芸、切り絵など
を通じたチームビルディング。

研究内容Ⅱ：40分授業デザインによる質の維持・向上

単元のデザイン

- ・教科横断的な単元構成の工夫（効率化）
- ・学習評価の内容・方法の整理と適正化

授業のデザイン

- ・時間短縮に応じた指導過程の最適化
- ・思考力・判断力・表現力を育む、短時間で効果的な支援ツールの開発

時間を短くしても、「密度」と「設計」で学習の質は向上する。



研究推進体制

全体推進：教頭



時間マネジメント：主幹教諭

レベルアップ担当
(研究部・学力向上C)

やるキッズ担当
(担任・児童会担当)

ゴールデン担当
(研究部・一般研)

40分授業研究
(研究部・研究主任)



2カ年研究計画

1年次（令和7年度/2025）

- ・研究構想の構築
- ・校内研修と実践開始
- ・介入前データ収集（分析）

2年次（令和8年度/2026）

- ・研究発表会の実施
- ・志摩中校区での
カリキュラム交流
- ・県・市への成果発信



成果の検証と評価指標

学力・学習状況

- ・全国学力・学習状況調査の
経年変化・クロス分析

心理・適応感

- ・尺度 ASSESS
(年3回：7・12・3月)

教師の意識

- ・教師質問紙 (年3回)

外部評価

- ・保護者アンケート (年2回)
- ・学校運営協議会評価 (年1回)



持続可能な 学びとウェルビーイングの未来へ



時間の再構築を通じて、
児童が「未来を創る力」を。

教師が「児童を導くゆとり」を。

児童も教師も主体的に楽しみ、
高まる活動の創造を目指して。